

Syllabus

専攻科1年 令和3年度 (2021)

Syllabus の活用にあたって

Syllabus「シラバス」は、授業項目、講義案を意味します。

このSyllabusには、皆さんが、今年度に学習する授業の科目名・単位数はじめ、ねらいや内容、教育形態、評価（情報源・規準）等が書かれています。

カリキュラムは、学習の積み上げを意識して、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野から構成されています。そして、社会の変化とともに看護師に求められている能力を養うために、各分野の教育内容を強化しました。

Syllabusには単位数が示されていますが、単位とは一定の質の勉学の量を、示す基準となるものです。

単位の計算方法は、高等学校の場合と異なり、専攻科においては大学設置基準第21条第2項の規定*の例によると定められています。（保健師助産師看護師等学校養成所指定規則）つまり、1単位の履修時間は、教室（学校）の内外合わせて45時間です。科目の単位は次の基準*によって定められています。

単位数を定めるに当たっては、一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

一 講義及び演習については、十五時間から三十時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位とする。

二 実験、実習及び実技については、三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって一単位とすることができる。

1単位と計算される勉学の時間量には、教室（学校）内における勉学だけでなく、自主学習を含めて計算されることになっています。つまり、受け身ではなく、求められる教育内容を自ら学んでいかなければなりません。それによって生涯にわたって学び続ける力をつけてほしい。

生涯学び続けることは、専門職には欠かせない要件です。

【1単位の基準表】

区 分	授業時間	記簿時間	計
講 義	1 5	3 0	4 5
	3 0	1 5	4 5
演 習	3 0	1 5	4 5
実験・実習	4 5	—	4 5

（専攻科の授業時数は、1時限90分を2時間とみなしている。）

CONTENTS

基礎分野		1 頁
専門基礎分野		5 頁
専門分野Ⅰ		13 頁
専門分野Ⅱ		17 頁

（臨地実習については「臨地実習便覧」も参照）

教育内容		規定 規則 単位数	授業科目	単位	時間	1 年		2 年		単位数合 計
						単位	時間	単位	時間	
基礎 分野	科学的思考の基礎	10	基 礎 科 学	2	30	2	30			2
	統 計 学		2	30	2	30			2	
	英 語		6	90	4	60	2	30	6	
	生 涯 スポーツ		1	30	1	30			1	
	教 育 学		2	30			2	30	2	
	心 理 学		2	30			2	30	2	
	情 報 科 学		1	30			1	30	1	
	言 語 表 現		2	30			2	30	2	
小計		10		18	300	9	150	9	150	18
専門 基礎 分野	人体の構造と機能	8	解 剖 生 理 学	2	60	2	60			2
			生 化 学	1	30	1	30			1
			薬 理 学	1	30	1	30			1
	病 理 学		1	30	1	30			1	
	微 生 物 学		1	30	1	30			1	
	疾病・治療概論		1	25	1	25			1	
	疾病・治療各論		1	30	1	30			1	
	健 康 支 援 論		1	30	1	30			1	
	健康支援と社会保 障制度 〔5〕	5	ヘルスプロモーション論	1	15			1	15	1
			環境論（公衆衛生）	1	15			1	15	1
			社会保障制度	3	45			3	45	3
小計		13		14	340	9	265	5	75	14
専門 分野 Ⅰ	基礎看護学	3	看 護 学 概 論	1	30	1	30			1
			看 護 過 程	1	30	1	30			1
			基礎看護学演習	1	30	1	30			1
	小計		3		3	90	3	90		
専門 分野 Ⅱ	成人看護学	4	成人健康生活支援概論	1	30	1	30			1
			成人健康生活支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			急性期クリティカル看護論	1	30	1	30			1
			慢性疾患療養生活支援論	1	30	1	30			1
	老年看護学	3	老年健康生活支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			老年健康生活支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
			老年健康生活支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
	小児看護学	3	小児健康生活支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			小児健康生活支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
			小児健康生活支援論Ⅲ	1	30	1	30			1
	母性看護学	3	女性のライフコース支援論Ⅰ	1	30	1	30			1
			女性のライフコース支援論Ⅱ	1	30	1	30			1
			女性のライフコース支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
	精神看護学	4	精神健康生活支援論Ⅰ	1	15	1	15			1
			精神健康生活支援論Ⅱ	1	30			1	30	1
			精神健康生活支援論Ⅲ	1	30			1	30	1
			精神健康生活支援論Ⅳ	1	15			1	15	1
	臨地実習	12	成人看護学実習	4	180	6	270	4	180	4
			老年看護学実習	2	90					2
			小児看護学実習	2	90					2
母性看護学実習			2	90	2					
精神看護学実習			2	90			2	90	2	
小計		29		29	1020	18	615	11	405	29
統合 分野	在宅看護論	4	在宅看護論総論	1	30			1	30	1
			在宅看護論方法論Ⅰ	1	30			1	30	1
			在宅看護論方法論Ⅱ	1	30			1	30	1
			在宅看護論方法論Ⅲ	1	15			1	15	1
	看護の統合と実践	4	看護の統合と実践Ⅰ	1	15			1	15	1
			看護の統合と実践Ⅱ	1	15			1	15	1
			看護研究	1	30			1	30	1
			統合ゼミ	1	30			1	30	1
		4	在宅看護論実習	2	90			2	90	2
			看護統合実践実習	2	90			2	90	2
小計		12		12	375			12	375	12
合計		67		76	2125	39	1120	37	1005	76

基礎分野	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	基礎科学	2 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
化学, 生物に関する基礎的・基本的な知識を身に付け, 専門基礎分野の生化学, 生理学と関連させながら, 物質の特性や生命体のしくみについて理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
生物 生命体のつくりとはたらき 遺伝情報の伝達・発現のしくみ			細胞およびDNAの構造と機能の概要を理解し, 生命現象を分子レベルでとらえる視点を身に付ける。				細胞小器官と生体膜およびそれらを構成する物質の特徴について理解させる。 DNAの塩基配列の変化が種内でのゲノムの多様性につながっていることについて触れる。	
化学 酸化還元反応 有機化合物			酸化還元反応が電子の授受によるものであることを理解する。 有機化合物の性質や反応を, その構造と関連づけて理解する。				酸化反応と還元反応が同時に起こることを理解させる。 人間が安全で豊かな生活を送るためには化学の知識を生かし, 有害な物質を適切に管理することが必要であることを知らせる。	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 化学 医学書院 系統看護学講座 生物学 医学書院 プリント								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
授業への取り組み (関心・意欲・態度) 小テスト 定期考査 探究活動への取り組み (意欲・技能・考察力)					授業 (一斉, グループ活動) 課題研究			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
化学と生物に関心を持ち, 細胞の構造と機能を分子レベルでとらえようと意欲的に取り組むとともに, 実践的な態度を身に付けている。		細胞の構造と機能について思考を深め, 看護をするうえに必要な化学的, 生物学的な判断ができる能力を身に付けている。		化学, 生物に関する基礎的・基本的な知識を基盤として, 細胞の構造と機能を分子レベルでとらえ, その成果を表現できる。		専門基礎分野の生化学, 生理学と関連させ, 物質の特性や生命体のしくみについて理解できる。		

基礎分野	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	統計学	2 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1	専 2	全員必修科目
科 目 の ね ら い								
社会的存在としての人間を理解するために、社会現象やシステムを多面的にとらえる。そのため統計資料の解説やデータ処理を活用できるようにする。多様な社会の中で幅広いものの見方ができ、人間を理解することができる能力を養う。								
学 習 内 容		学習内容ごとの目標				指導上の留意点等		
データの整理法、および確率分布と応用 1. 統計的表示法と統計的図示法 ・度数分布表 ・ヒストグラム ・度数折れ線 2. 平均値と標準偏差 ・平均値と標準偏差 ・階級値による平均、分散の求め方 3. 正規分布とその応用 ・正規分布の性質 ・正規分布の応用 4. 検定（Z 検定、 t 検定） ・有意水準（危険率） ・母集団の母平均の検定 ・2つの母集団の母平均の差の検定		統計的考え方に基づいてデータを整理し、表や図に表す方法が理解できる。 平均値と標準偏差等、代表値と散布度について理解できる。 正規分布等確率分布について理解できる。 母平均の検定、母平均の差の検定について理解できる。				情報機器を用いて演習を行う。 表・グラフ等ノートに書き写すことが困難な場合が多いので、資料を極力配布する。 説明に用いる数式については、わかりやすくなるよう十分に工夫する。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
(薬学生のための基礎シリーズ) 基礎統計：培風館 教員の作成した補助資料（プリント）								
評 価 の 情 報 源			教 育 形 態					
出席状況 授業への取り組み（関心・意欲・態度） 提出物（課題レポート） ペーパーテスト			授業（プロジェクターを用いる） 校内演習（コンピュータによるデータ処理）					
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
看護を行うために必要な統計について関心を持ち、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について統計学的に理解しようと意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。		人間の健康と疾病について必要な統計学的思考を深め、看護をするうえで必要な統計学的データを判断する能力を身につける。それを基盤として、その統計データを的確に表や数値として表現できる。		看護を行うために必要な統計学に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。		社会的存在としての人間を理解するために、社会現象やシステムを多面的にとらえ、統計資料の解説やデータ処理を活用することができる。		

基礎分野	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	英語	4 (60)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
看護の臨床場面で使われる英語について、医学用語や会話を取り上げ、活用のための基礎的能力を身につける。ナースが患者と接するときに最小限必要な英会話ができるための基礎的能力を養う。								
お も な 学 習 内 容使用教科書・教材・実技実習材料など								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 Unit1 Do you work on the surgical ward?			困ったときの英会話 診療科名、患者基本情報				患者に安心感を与えられるようなコミュニケーション能力と基本的知識の構築を目標に、積極的な取り組みと知識の定着度が感じられるようにする。	
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 Unit 2 What's your problem today?			診療手続き 症状					
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 Unit 3 This is the nurse' station.			入院時オリエンテーション					
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 Unit 4 Are you suffering from any illness?			病歴の聴取 病名					
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 Unit 5 You need to have an MRI .			検査					
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 Unit 6 You're going to have a baby!			産婦人科					
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 Unit 7 My baby has a fever.			小児科 予防接種					
使用教科書・教材・実技実習材料など								
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 医学書院								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み（関心・意欲・態度） 提出物（ノート・レポート） 小テスト（単語テスト） ペーパーテスト					授業・個人 授業・グループ（プレゼンテーション） 校内実習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
英語に関心を持ち、予習復習して積極的に取り組んでいる。意欲的に会話やグループ活動に取り組んでいる。		相手の話す内容を理解し、適切な応答ができ、表現している。		既知の情報をもとにスムーズに会話を進めるための技能を身につけている。		ナースが患者と接するときに最小限必要な英会話（医療用語・表現）ができるために必要な知識を身につけ、医療に関する英文を読むことができる。		

	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
基礎分野	生涯スポーツ	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
体力の向上と、健全な心身の発達を図り、豊かな生活を送ることを目指す。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
基礎トレーニング レクリエーション			自己の体力や生活に応じた課題を持ち、運動を生活の中で実践できるようにする。			生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進ができるよう、体力の向上を目指した運動を行わせる。 健康や安全に留意して、運動をさせる。		
団体スポーツ (バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール)			チームに応じた課題を設定し、課題解決のための練習法を実践しながら、互いに協力してゲームを行う。			生涯にわたって球技に親しむことができるよう、ルールや審判法、ゲームの運営について理解させる。 勝敗に対して公正な態度がとれるようにさせる。 練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをさせる。		
個人スポーツ (卓球・バドミントン)			自分の能力に応じた課題を設定し、課題解決方法を理解し、工夫しながらゲームを行う。			生涯にわたって球技に親しむことができるよう、ルールや審判法、ゲームの運営について理解させる。 勝敗に対して公正な態度がとれるようにさせる。 練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームをさせる。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
使用教科書なし，教材は学校で準備する								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み					校内実習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
体力づくりについて関心をもち、身体運動の楽しさに触れ、運動に親しむ態度を身に付けている。チームにおける役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たそうとし、互いに協力して練習やゲームをしようとする。 ふさわしい服装等で臨み、安全に留意できている。		チームの課題や自己の能力に応じた課題を設定し、課題に応じた練習計画や作戦を立てて、練習やゲームをしようとする。		各運動の特性に応じた技能を身に付け実践できている。 個人的技能，集団的技能を習得している。		体力づくりの意義や体力の高め方を理解している。 各種目の特性や効果的な練習方法，正しい審判法，ゲームの運営などについて理解している。		

専門基礎分野	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	解剖生理学	2 (60)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
解剖学や生理学を系統的に学習し、看護者として必要な人体の構造と機能を理解する。人体の仕組みについて、その構造と機能の両面を人間の基本的な生活行動と関連させて統合的に理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識 2. 栄養の消化と吸収 A 口・咽頭・食道の構造と機能 B 腹部消化管の構造と機能 C 脾臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 D 腹膜 3. 呼吸と血液の循環 A 呼吸器の構造 B 呼吸 C 循環器系の構成 D 心臓の構造 E 心臓の拍出機能 F 末梢循環器系の構造 G 血液の循環とその調節 H リンパ管 I 血液 4. 体液の調節と尿の生成 A 腎臓 B 排尿路 C 体液の調節 5. 内臓機能の調節 A 自律神経による調節 B 内分泌系による調節 C 全身の内分泌腺と内分泌細胞 D ホルモン分泌の調節 E ホルモンによる調節の実例 6. からだの支持と運動 A 骨格とはどのようなものか B 骨の連結 C 骨格筋 D 体幹の骨格と筋 E 上肢の骨格と筋 F 下肢の骨格と筋 G 頭頸部の骨格と筋 H 筋の収縮 7. 情報の受容と処理 A 神経系の構造と機能 B 脊髄と脳 C 脊髄神経と脳神経 D 脳の高次機能 E 運動機能と下行伝導路 F 感覚機能と上行伝導路 G 眼の構造と視覚 H 耳の構造と聴覚・平衡覚 I 味覚と嗅覚 J 疼痛 8. 外部環境からの防御 A 皮膚の構造と機能 B 生体の防御機能 C 体温とその調節 9. 生殖・発生と老化のしくみ A 男性生殖器 B 女性生殖器 C 受精と胎児の発生 D 成長と老化 系統解剖学見学実習			解剖生理学を学ぶうえで必要な知識について知る。 栄養の消化と吸収についての構造・機能を理解する。 呼吸と血液循環についての構造・機能を理解する。 体液の調節と尿の生成についての構造・機能を理解する。 内臓機能の調整について構造・機能を理解する。 からだの支持と運動について構造・機能を理解する。 神経系感覚器系について構造・機能を理解する。 皮膚や生体の防御について構造・機能を理解する。 生殖・発生と老化について構造・機能を理解する人体の構造を解剖見学で確認する。				それぞれの分野について看護職として必要な基礎知識を理解させる。 解剖見学実習などを取り入れ、理解を深める。	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み テスト					授業 校外実習（見学実習）			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
看護を行うために必要な人体の構造と機能について関心を持ち、人間の健康と疾病及び環境との関係について意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。		人間の健康と疾病について思考を深め、看護をするうえで必要と人体の構造と機能を判断する能力を身に付けの確に表現する。		看護を行うために必要な人体の構造と機能に関する基礎的・基本的な知識を基に、人間の健康と疾病及び環境との関係について理解を深める。		看護を行うために必要な人体の構造と機能に関する知識を身に付け、その構造と機能の両面を人間の基本的な生活行動と関連させて統合的に理解できている。		

専門基礎分野	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	生化学	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専1○	専2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
細胞内の化学的現象とその統合機能を理解でき、生命科学の基本に興味をもてるようにする。栄養と代謝、代謝産物の排泄について理解する。 遺伝のしくみについて理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
生体を構成する物質 ①生化学を学ぶための基礎知識 ②糖質 ③脂質 ④タンパク質 ⑤核酸 ⑥水と無機質 ⑦ホルモン			有機化合物を中心として人の身体を構成している物質について、その構造や性質について学ぶ。			看護を行うために必要な人体の構造と機能について理解させる。		
生体内の物質代謝 ①代謝のあらまし ②酵素 ③ビタミンと補酵素 ④糖質代謝 ⑤脂質代謝 ⑥タンパク質代謝 ⑦核酸代謝 ⑧ポリフィリン代謝			人の生体内におけるさまざまな代謝とその役割について学ぶ。			代表的な疾患について病態と代謝のつながりを理解させる。		
遺伝情報とその発現 ①遺伝情報 ②先天性代謝異常			遺伝子の情報がどのように働くかについて学ぶ。			遺伝子の変化が身体にどのような変化を及ぼすのかを理解させる。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 人体の構造と機能 [2] 生化学 医学書院 系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 小テスト 定期考査					授業・グループ演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
看護を行うために必要な人体の構造と機能について関心を持ち、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。		人間の健康と疾病について思考を深め、看護をするうえに必要な人体の構造と機能を判断する能力を身に付け、その成果を的確に表現する。		看護を行うために必要な人体の構造と機能に関する基礎的・基本的な知識を基盤として、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解を深めるための技能を身につけている。		看護を行うために必要な人体の構造と機能に関する知識を身に付け、細胞内の化学的現象とその統合機能を理解でき、栄養と代謝、代謝産物の排泄、遺伝のしくみについて理解できている。		

専門基礎分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	薬理学	1 (30)	1年	2年	3年	専1○	専2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
総論（高校看護科で履修済み）の知識をもとに、薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について学ぶ。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
薬物の臨床的応用 (ア)医療と薬物療法 (イ)治療薬の主作用と副作用 (ウ)医療に用いられる薬物 中枢神経系に作用する薬物 ・全身麻酔薬 ・催眠薬・抗不安薬 ・抗精神病薬 ・パーキンソン症候群治療薬 ・抗てんかん薬 ・抗精神病薬 末梢での神経活動に作用する薬物 ・局所麻酔薬 ・交感神経作用薬 ・副交感神経作用薬 心臓・血管系に作用する薬物 ・ジギタリス（強心配糖体） ・狭心症治療薬 ・抗高血圧薬 ・抗高脂血症薬 ・血管拡張薬 ・利尿薬・血液および造血器官に作用する薬物 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 ・呼吸器系に作用する薬物 ・消化器系に作用する薬物 アレルギーおよび炎症に対する薬物 ・抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 ・非ステロイド性抗炎症薬 ・ステロイド性抗炎症薬 ・関節リウマチ治療薬 ・痛風治療薬 抗感染症薬・消毒薬 ・感染症治療に関する基礎事項 ・抗生物質各論 ・合成化学療法薬 ・特殊な感染症の治療薬 ・消毒薬 免疫治療薬 物質代謝に作用する薬物 ・ホルモンおよびホルモン拮抗薬 ・ビタミン製剤 抗がん薬 ・がん治療に関する基礎事項 ・抗がん薬各論 外用薬 ・皮膚に適用する薬物 ・眼科外用薬			総論の知識をもとに、薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について学ぶ。				薬剤師による専門的知識を受講する。	
							「看護の統合と実践Ⅰ」との連携をはかる。	
							臨床で活用できる内容を多く取り扱う。	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進(3) 薬理学, 医学書院								
評 価 の 情 報 源			教 育 形 態					
授業への取り組み（関心・意欲・態度） 出席状況，ペーパーテスト			授業 演習					
関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能			知識・理解		
看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進について関心を持ち、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して人間の健康状態を適切に判断する能力を身に付けその成果を的確に表現する。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基礎的・基本的な知識を基盤として、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解を深めるための技能を身につけている。			看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物の管理について理解している。		

専門基礎分野	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	病理学	1 (30)	1年	2年	3年	専1○	専2	全員必修科目
科目の目標								
疾病の原因や発生病理，形態と機能および代謝変化の原理について学び病態論へつなげ，病理的な観点から理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
1. 代謝異常 (1) 脂質代謝障害と疾患 (2) タンパク質代謝障害と疾患 (3) 糖質代謝障害と疾患 (4) その他の代謝障害と疾患			代謝障害によって生じるおもな疾患について理解する。			健常者の血糖調節機序や糖尿病における血糖上昇の理由を理解させる。		
2. 循環障害 (1) 局所性の循環障害 (2) 全身性循環障害			局所循環障害や全身性循環障害について理解する。			血栓症と塞栓症の違いや，梗塞について理解させる。		
3. 炎症 (1) 炎症 (2) 炎症の各型			炎症の原因や経過，創傷治癒，滲出性炎，増殖性炎，特異性炎について理解する。			炎症と修復の経過を病理学的に理解させる。		
4. 腫瘍 (1) 腫瘍の定義と分類 (2) 腫瘍の発生病理 (3) 悪性腫瘍の転移と進行度			腫瘍の定義と分類，悪性腫瘍の転移と進行度，腫瘍の発生病理について理解する。			腫瘍の定義や分類について正確に理解させる。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進(1) 病理学 ， 医学書院								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 小テスト ペーパーテスト					授業・演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進について関心を持ち，人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。		人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して人間の健康状態を適切に判断する能力を身に付けその成果を的確に表現する。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基礎的・基本的な知識を基盤として，人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解を深めるための技能を身につけている。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，疾病の原因や発生病理，形態と機能および代謝変化の原理について理解している。		

専門基礎	科目名	単位	履 修 学 年					科目の種類
	微生物学	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
看護に必要な微生物の人体におよぼす影響および病原微生物の感染予防について理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
(1) 微生物学の基礎 ①微生物と微生物学 ②細菌・真菌・原虫・ウイルスの性質 (2) 感染とその防御 (3) おもな病原微生物 ①病原細菌と細菌感染症（グラム陽性球菌、グラム陰性球菌，グラム陰性好気性桿菌，グラム陰性通性菌，カンピロバクター属とヘロリバクター属，グラム陽性桿菌，抗酸菌と放線菌類，嫌気性菌，スピロヘータ，マイコプラズマ，リケッチア目，クラミジア科） ②病原真菌と真菌感染症 ③病原原虫と原虫感染症（根足虫類，鞭毛虫類，孢子虫類） ④主なウイルスとウイルス感染症（DNAウイルス，RNAウイルス）			看護に必要な微生物の人体におよぼす影響および病原微生物の感染予防について理解する。			専門的知識を有する講師が教授する。 臨床で活用可能なものとして学ぶ内容とする。 細菌を採取，培養し，観察するなどの演習を取り入れる。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進(4)微生物学 医学書院								
評 価 の 情 報 源			教 育 形 態					
出席状況，授業への取り組み，ペーパーテスト			授業，校内演習					
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進について関心を持ち，人間の健康と疾病，これらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組み，実践的な態度を身に付けている。		人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して人間の健康状態を適切に判断する能力を身に付け，その成果を的確に表現する。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する人間の健康と疾病，これらと環境との関係について理解を深めるための技能を身につけている。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基本的な知識を身に付け，微生物の人体におよぼす影響および病原微生物の感染予防について理解している。		

専門基礎 分野	科目名	単位 (h)	履 修 学 年					科目の種類
	疾病・治療概論	1 (25)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
・解剖生理学や生化学で得た知識を基に、看護に必要な検査について理解する。臨床検査の全体像と意義を総合的に把握し、検査を適切に行うために必要な知識や、結果を考察する能力を修得する。 ・周手術期にある患者の看護について、解剖生理、病態生理と関連し理解する。 ・重篤で急激に変化する患者の状態を、科学的な視点でアセスメントし、生命維持に必要な看護について理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
1 臨床検査 臨床検査総論 ・一般検査・血液検査・化学検査（血清検査、糖・脂質代謝検査）・免疫 ・血清検査・ホルモン検査・生理機能検査、生理機能検査の基礎、EKG			・解剖生理学や生化学で得た知識を基に、看護に必要な検査について理解する。 ・臨床検査の全体像と意義を総合的に把握し、検査を適切に行うために必要な知識や、結果を考察する能力を修得する。				・心電図検査においては、シミュレーション人形や実際の検査器具を用いて演習を行う。	
2 外科総論 ・麻酔に伴う援助技術、分類と特徴、麻酔前準備、酸素療法 ・体液循環の管理、輸液療法、損傷に伴う援助技術 ・救急医療、移植医療			・外科的治療のもたらす効果と障害についても学ぶ。 ・麻酔学・蘇生学の講義を受けクリティカルケアについての知識を得る ・手術および麻酔侵襲に対する生体反応を理解し、周手術期の看護を学習する。				・外科麻酔科領域の病態生理について臨床看護と結びつけて理解することができるよう指導する。 ・気管内挿管法、人工呼吸器の使い方については実物やビデオ教材等を用いて演習を行う。	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 別巻 臨床検査 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論			医学書院 医学書院					
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 小テスト ペーパーテスト					授業・グループ 校内実習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進について関心を持ち、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組もうとしている。また、急性的展開をする疾患または病態に応じた対象への援助について意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。		人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して人間の健康状態を適切に判断する能力を身に付けている。また、重篤で急激に変化する患者の状態を、科学的な視点でアセスメントし、解剖生理、病態生理と関連して思考を深めることができる。またその成果を的確に表現できる。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基礎的・基本的な知識を基盤として、人間の健康と疾病及び環境との関係について理解を深め、その成果を的確に表現する。周手術期にある患者の看護について、必要な技術を身に付けている。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、看護に必要な検査について理解している。周手術期にある患者の看護において、臨床で必要とされる知識を身に付け、援助の方法やその必要性について理解している。		

専門基礎分野	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	疾病・治療各論	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
・感染症の代表的な疾患・症状および、その特徴・診断・治療・看護について学ぶ。また、看護が感染症対策に果たす役割を学ぶ。 ・消化器系の主な疾患の外科的治療とその看護について学ぶ。 ・血液・造血器系の主な疾患・症状の治療とその看護について学ぶ。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
1) 感染症 ①感染症とは ②感染症の診断 ③感染症の治療 ④疾患の理解 ⑤感染症患者の看護			微生物や薬理学で得た知識を基に、看護に必要な感染症の基礎知識について理解する。 感染症の主な症状・疾患について学び、その治療・看護の根拠について理解する。			微生物学や薬理学、基礎看護などの既習内容を活用し、感染症の理解に役立てられるよう支援する。 感染症対策における看護の役割への理解を促す。		
2) 外科消化器 次の疾患の診断・外科的治療・看護 ①食道がん ②結腸がん・大腸がん ③肝臓がん ④胆嚢がん ⑤膵臓がんなど			消化器外科の主な疾患について学び、さまざまな外科的治療の特徴を理解する。 消化器疾患患者の特徴と周手術期の看護を学習する。			既習内容と各消化器にみられるがんの外科的治療の特徴を、実際の事例を通して理解を促す。		
3) 血液・造血器 ①血液疾患の症状とその病態生理 ②検査と治療・処置 ③疾患の理解（貧血・白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・出血性疾患） ④血液疾患患者の看護			血液・造血器疾患の主な疾患の特徴を学び、その診断・治療・看護を理解する。			血液・造血器疾患には、難病や白血病などの重大な疾患もあり、出血や感染のリスクの大きい時期等があることなど、治療や副作用を理解し、また、家族への支援が必要であることを理解を促す。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座	成人看護学(11)アレルギー・膠原病・感染症						医学書院	
系統看護学講座	別巻 臨床外科看護各論						医学書院	
系統看護学講座	成人看護学(4)血液・造血器						医学書院	
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 小テスト ペーパーテスト					授業・グループ			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進について関心を持ち、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組み、また、病態に応じた対象への援助について、実践的な態度を身に付けている。		人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して人間の健康状態を適切に判断する能力を身に付けている。また、科学的な視点でアセスメントし、思考を深め、的確に表現する。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基礎的・基本的な知識を基盤として、人間の健康と疾病及び環境との関係について理解を深め探求する技能を身につけている。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、看護に必要な検査について理解している。 それぞれ既習内容と結びつけながら理解できる。		

専門基礎分野	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	健康支援論	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
各器官に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識や，治療の方法を学ぶ。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
循環器 ・症状と病態生理 ・検査と治療処置 ・疾患の理解 虚血性心疾患，心不全，血圧異常，不整脈，弁膜症 心膜炎，心筋疾患，肺性心，先天性心疾患，動脈系・静脈系・リンパ系疾患，脂質異常症			各器官に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識や，治療の方法を学ぶ。			各専門の医師より受講することで，最新の治療や看護上の留意点を学ぶ。		
胸部・心臓疾患の外科的治療 ・疾患の理解 乳がん，乳腺症，繊維腺腫， 肺がん，気管支拡張症，肺結核症，肺真菌症 肺良性腫瘍 自然気胸，膿胸 後天性心疾患，僧房弁の疾患，大動脈弁の疾患 虚血性心疾患，静脈の血流障害，動脈瘤，静脈瘤			各器官に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識や，治療の方法を学ぶ。			各専門の医師より受講することで，最新の治療や看護上の留意点を学ぶ。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 臨床外科看護各論 系統看護学講座 成人看護学(2)呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(3)循環器 医学書院								
評 価 の 情 報 源			教 育 形 態					
出席状況 授業への取り組み（関心・意欲・態度） ペーパーテスト			授業・演習					
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進について関心を持ち，人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身に付けている。		人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して人間の健康状態を適切に判断する能力を身に付け，その成果を的確に表現する。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基礎的・基本的な知識を基盤として，人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解を深める技術を身につけている。		看護を行うために必要な疾病の成り立ちと回復の促進に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，各器官に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識や，治療の方法について理解している。		

専門分野 I	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	看護学概論	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
「看護とはなにか」という問いについて、看護の理念、看護実践の原理と倫理、看護の対象となる人間とその健康、看護の提供者である看護職者の教育・制度・組織、看護に対する社会的要請、などの多角的な観点から検討し、看護学全般に対する学問的基盤の土台を形成する。								
学 習 内 容		学習内容ごとの目標					指導上の留意点等	
1 看護とは 看護の本質、 看護の役割と機能		看護が現在のかたちになるまでの歴史的変遷と看護機能団体における看護の定義をまなび、看護の本質とは何かについて考える。看護実践に必要な要素、看護実践の質の保障に必要な要件を学ぶ。					看護機能団体における「看護の定義」をてがかりとしながら、質の高い看護を提供するための要素について説明する。	
2 看護の対象の理解 人間の欲求と健康、 健康のとらえ方 障害のとらえ方		人間にはどのような欲求があり、それが看護とどのように関係しているのかを把握する。時代とともに変化してきた健康や障害の概念と定義から、看護の対象となりうる人々の姿を学習する。					健康の定義としてWHO憲章による定義を紹介する。	
3 看護における倫理 現代社会と倫理、医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理、看護実践における倫理問題への取り組み		倫理とは何か、看護職を目指す中で、なぜ倫理を学ぶ必要があるのかを理解する。医療・看護をめぐる倫理的問題には、どのようなものがあるかを学ぶ。医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、倫理的問題や倫理的ジレンマの解決にどのように取り組むべきかを学ぶ。					日本看護協会「看護者の倫理綱領」前文をてがかりとしながら、倫理原則を踏まえ、ケアの倫理について考えを深める。	
4 看護理論		主な看護理論家の看護理論の内容について理解する。					理論の背景についても説明する。	
5 臨床看護総論		健康状態の経過に基づく看護、治療処置を受ける対象者への看護に焦点をあて、患者の特徴と看護について解説する。					健康障害を持つ対象（者）を理解し、治療、状態に応じた看護について認識させる。	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 基礎看護学(1)看護学概論 看護理論一看護理論 20 の理解と実践への応用 系統看護学講座 基礎看護学(4)臨床看護総論								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物（レポート・課題）ペーパーテスト					授業（講義・グループ）			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
看護の概念、看護の対象、看護の機能と役割、看護サービスのマネジメントについて関心をもち、自ら進んで看護とは何か、看護の果たすべき役割を追求しようとする実践的な態度を身に付けている。		人間の健康に関わる問題点を解決するため、基礎・基本的知識と技術を活用して論理的に考え、適切に判断し創意工夫することができる。自己の人間観・看護観を的確に表現できる。		統一体としての人間理解を目指し、対象の理解に対する適切な技術を身に付け、その展開を工夫する能力を身につけている。		人間の総合的理解と、健康についての援助を科学的根拠に基づいて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付け、看護の概念や看護の機能と役割を理解している。		

専門分野 I	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	看護過程	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
対象の健康問題を判断し、解決するための理論的知識を用いて問題解決できる思考を専門的技術として活用する方法を習得する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
1. 看護過程とは (1) 意義と対象 (2) 基本構造			看護過程の構造、意義、対象を理解できる。				看護科での内容を基に、より理解を深められるよう説明する。	
2. 看護過程の展開 (1) 情報収集、スクリーニング (2) アセスメント (3) 看護診断 NANDA-I 看護診断 (4) 看護計画 (5) 経過記録 (SOAP) (6) 実習記録の書き方			看護過程の展開の考え方、方法について理解できる。				効果的な情報収集の方法について説明する。 アセスメントの基本的な考え方について理解させる。 NANDA-I 看護診断の種類や診断方法について理解させる。 SOAP の書き方について理解させる。	
3. 看護過程ゼミ (6～7 症例)			事例を用い、適切な看護過程の展開ができる。				それぞれの疾患について、全体像の捉え方を説明する。 看護過程の考え方を習得させる。	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 基礎看護学(2)基礎看護技術 I 医学書院 NANDA-I 看護診断 定義と分類 医学書院 疾患別看護過程 医学書院 疾患別看護過程の展開 学研								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物 テスト					授業・グループ演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
実在または潜在する健康問題やライフプロセスに対する個人、家族、およびコミュニティの反応に関心を持ち問題解決への実践的な態度を身につけている。理論的知識を用い、より個別性の援助ができるよう考えることができる。		人間の健康に関わる問題点を解決するため、基礎的・基本的な知識と技術を活用して論理的に考え、適切に判断をし創意工夫することができる。看護過程においてクリティカルシンキングができる。 既存の知識や理論を活用するプロセスを学び、より適切な看護実践につなげるため、科学的思考や判断能力を身につけ表現することができる。		人間の総合的理解と健康についての援助に関する基礎的・基本的な看護理論に基づいた技術を身につけることができる。		人間の総合的理解と健康についての援助を科学的根拠に基づいて理解し、基礎的・基本的な知識を身につけ、看護過程展開の方法を理解する。看護の意義や役割を理解している。 看護における様々な知識や理論について知識を持った上に、専門職業人としてそのプロセスを理解することができる。		

専門分野 Ⅰ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	基礎看護学演習 (フィジカルアセスメント)	0.5(15)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術及び治療場面において必要とされる看護技術について学ぶ。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
1 フィジカルアセスメントの序説 ・フィジカルアセスメントとは何か ・フィジカルアセスメントの技術			フィジカルアセスメントの重要性や系統別フィジカルイグザムについて理解できる。				フィジカルアセスメントの構成について理解させる。	
2 頭頸部・神経系のフィジカルイグザム ・フィジカルイグザムのポイント ・フィジカルイグザムに必要な構造と機能の知識 ・フィジカルイグザムの手順と見逃したくない症状や徴候			頭頸部、神経系のフィジカルイグザムのポイントやフィジカルイグザムに必要な構造と機能の知識を理解し、手順と見逃したくない症状や徴候を学ぶ。				顔部には局所の状態だけでなく、全身状態や精神状態なども反映されるので注意させる。総頸動脈、頭頸部リンパ節や触診・聴診や脳神経系の評価の練習をさせる。(演習)	
3 胸部のフィジカルイグザム (呼吸・循環) ・フィジカルイグザムのポイント ・フィジカルイグザムに必要な構造と機能の知識 ・フィジカルイグザムの手順と見逃したくない症状や徴候			胸部のフィジカルイグザムのポイントやフィジカルイグザムに必要な構造と機能の知識を理解し、フィジカルイグザムの手順と見逃したくない症状や徴候を学ぶ。				胸郭と肺・気管・気管支などの呼吸器系の臓器や心臓や血液循環について指導する。シミュレーションモデルを用い呼吸音や心音聴診の練習をさせる。(演習)	
4 腹部のフィジカルイグザム ・フィジカルイグザムのポイント ・フィジカルイグザムに必要な構造と機能の知識 ・フィジカルイグザムの手順と見逃したくない症状や徴候			腹部のフィジカルイグザムのポイントやフィジカルイグザムに必要な構造と機能の知識を理解し、手順と見逃したくない症状や徴候を学ぶ。				腹部の視診、腹部の聴診、腹部の打診、腹部の触診の練習をさせる。(演習)	
5 運動系・感覚系のフィジカルイグザム			運動系・感覚系のフィジカルイグザムのポイントやフィジカルイグザムに必要な構造と機能の知識を理解し、手順と見逃したくない症状や徴候を学ぶ。				運動系・感覚系のフィジカルアセスメントの方法を練習させる。(演習)	
6 実技テスト			臨床でよく行われるフィジカルイグザミネーションについて根拠に基づいた実施や観察ができるようにする。				シミュレーションモデル(フィジコやラング)を用いて、根拠に基づいた観察ができるように練習・指導する。(演習)	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
フィジカルアセスメント ガイドブック目と手と耳でここまでわかる(第2版) 医学書院								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物(ノート・レポート) 試験 実技テスト 小テスト					授業(講義・グループ) 演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
フィジカルアセスメントやフィジカルイグザムについて関心を持ち、自ら進んで科学的な根拠に基づいた基礎的・基本的な看護に取り組む実践的な態度を身に付けている。		対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識を活用して、論理的に考え、適切に判断し表現することができる。		対象者の健康状態を把握するためフィジカルアセスメントに必要なフィジカルイグザの技術を身につけることができる。		フィジカルイグザムのポイントやフィジカルイグザに必要な構造と機能の知識、フィジカルイグザの手順と見逃したくない症状や徴候について理解出来る		

専門分野 Ⅰ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	基礎看護学演習 (研究の基礎)	0.5(15)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
看護の専門職人として、看護の問題を科学的に解決できるよう研究的態度について学ぶ。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
1) 看護における研究 ①看護における研究の意義 ②研究の目的、分野 ③研究の種類と各論文の構成			看護における研究の意義および目的・分野、研究の種類による方法の選択、また、論文の構成など、基礎的知識を学ぶ。			看護の専門職人として、看護研究を身近なものとして意識し、看護研究を実施するのに必要な基礎知識をもとに、文献の活用方法や倫理的配慮を具体的にどうするかを考えさせる。		
2) グループ研究の実施・発表 興味・関心のあるテーマを決め、グループを作り、文献を活用しながら、研究を進める。			グループ毎に看護の視点からテーマを決め、文献を活用しながら研究を進め、研究的態度について学ぶ。			既習内容や臨地実習での疑問を看護の視点からテーマとできるように考えさせる。 研究のまとめ方、発表の仕方をグループで経験させる。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
別巻 看護研究 医学書院 自作プリント								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み その他（グループ研究への取り組み、研究発表）					授業（講義・グループ） 演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
看護を学ぶ上での疑問や問題を粘り強く探求していこうとする態度を養うと共に、専門職業人として研究に実践的に取り組もうとする態度を身につける。 また、研究における倫理的配慮ができる態度を身につける。		文献の活用など既存の知識や理論を活用するプロセスを学んだ上に、より適切な看護実践につなげるための研究の重要性を理解し、科学的思考や判断能力を身につける。 周囲の者とも積極的に意見交換を行い、協力して研究成果をわかりやすく発表することができる。		研究グループにおいて自己の考えを論理的に述べることができると共に、周囲の者とも積極的に意見交換を行い、協力して研究成果をわかりやすく発表する技能を身につけている。		看護における様々な研究の既存の知識や理論について知識を持った上に、専門職業人としての研究の意義や重要性を知り、そのプロセスを理解することができる。		

専門分野 Ⅱ	科目名	履 修 学 年					科目の種類
	成人健康生 活支援概論	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標							
大人の生活と健康に関する基本的知識を基盤とし、大人の多様な健康状態や健康問題に対応するための看護のアプローチの基本的考え方や方法について学ぶ。							
学 習 内 容		学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
成人の生活と健康 ①成人と生活 ②生活と健康		変動する社会状況に対応しながら生活している大人の姿を、最新のデータや情報から概観したり、生涯発達していく大人の視点にたって学ぶ。				成人期の身体的、精神的、社会的課題についてまとめ、両親や身近にいる成人の生活史や体験を考察しながら、成人について理解させる。	
成人への看護アプローチの基本		健康行動を生み、はぐくむ看護について理解し、患者の意思決定を支える看護について学ぶ。				大人の生活と健康の過程は個々多様であること、どのような健康状態にあっても、自律・自立した大人として、よりよい健康状態をめざすという成人期の看護について理解させる。 個々が社会において体験する生活と健康に焦点を合わせ、その人らしくあるための看護の基本となる考え方について理解させる。 慢性病との共存の過程を促す看護・終末期医療の現状や人生最後のときを支える看護について理解させる。	
ヘルスプロモーションと看護		大人のヘルスプロモーションについて学び、地域社会や職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護について学ぶ。					
健康をおびやかす要因と看護		健康をおびやかす要因とストレスが健康に及ぼす影響と対処について理解する。					
健康の急激な破綻から回復を促す看護		急激な健康破綻に陥った人の状況と体験している苦痛について理解し、看護としてどのようなことが必要かを学ぶ。					
健康生活の慢性的な揺らぎの再調節を促す看護		慢性患者の病みの奇跡を理解し、セルフマネジメントの必要性について理解する。					
人生の最後のときを支える看護		エンド・オブ・ライフ・ケアや全人的苦痛について考えることができる。					
使用教科書・教材・実技実習材料など							
系統看護学講座 系統看護学講座別巻		成人看護学(1)成人看護学総論 がん看護学		医学書院 医学書院			
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態		
出席状況 授業への取り組み 試験 提出物(ノート, 課題, レポート) その他(グループディスカッションの状況)					授業(講義) 演習		
評 価 規 準							
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解	
成人期にある対象について関心をもち、成人の特徴を理解するために意欲的に取り組み、看護実践に活かそうとする態度を身につけている。		成人期にある対象の理解ができ、特徴的な健康問題について考えることができる。看護的援助の必要な状況を判断し表現することができる。		成人期の特徴を理解し、対象者のニーズを満たすための看護的援助が実践できる技術を身につけている。		自律・自立した成人のよりよい健康状態をめざすための看護アプローチがわかる。その意義や役割を理解している。	

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	成人健康生活 支援論Ⅰ	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
患者の健康レベルに合わせ安全・安楽な援助が行えるよう各レベルを理解し，科学的根拠に裏付けられた技術を修得する。また，各健康レベルを理解し，適切な技術を提供できるよう目的・方法を理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
呼吸器 ・症状と病態生理 ・検査と介助 ・疾患の理解 気管支・肺・胸膜の疾患 急性・慢性気管支炎，気管支喘息，気管支拡張症，肺炎，肺結核症，肺真菌症，肺寄生虫症，サルコイドーシス，塵肺，肺気腫，肺腫瘍，胸膜炎，膿胸，自然気胸，胸膜腫瘍			各器官に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識や，治療の方法を学ぶ。				各専門の医師より受講する。	
消化器 ・症状と病態生理 ・検査と介助 ・疾患の理解 消化器の疾患 胃・食道逆流症，胃炎，胃十二指腸潰瘍，胃癌，腸炎，腹膜炎，虫垂炎，ヘルニア，イレウス，腸管ポリープ，結腸・直腸癌，肝炎，肝硬変，肝臓癌，胆石症，急性胆嚢炎・胆管炎，胆管癌，胆嚢癌，膵炎，膵臓癌，			各器官に疾病を持つ患者の身体的アセスメントができる基礎知識や，治療の方法を学ぶ。				各専門の医師より受講する。	
呼吸器・消化器・循環器疾患患者の看護 ・慢性閉塞性肺疾患，肺結核 ・肝硬変， ・高血圧症，虚血性心疾患			症状に対する看護および検査や治療，処置を受ける患者の看護の知識と技術について学ぶ。				それぞれの疾患の知識に基づいて，それぞれの疾患をもつ患者の看護活動について指導する	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 成人看護学(3)循環器 系統看護学講座 成人看護学(5)消化器 系統看護学講座 成人看護学(2)呼吸器			医学書院 医学書院 医学書院					
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物（課題，レポート等） 小テスト 試験					授業（講義・グループ） 演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
患者の健康レベルに合わせた援助，適切な技術について関心を持ち，人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようとする意欲的に取り組むとともに，実践的な態度を身につけている。		患者の健康レベルに合わせた援助，適切な技術について思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して人間の健康状態を適切に判断し，表現する能力を身につけている。		患者の健康レベルに合わせた看護を行うために必要な基礎的・基本的な知識をもとに科学的根拠に裏付けられた技術や安全・安楽な援助を身につけている。		患者の健康レベルに合わせた看護を行うために必要な科学的根拠に裏付けられた技術や安全・安楽な援助の目的・方法がアセスメントできる基礎的・基本的な知識を理解している。		

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	急性期クリティカル看護論	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
クリティカルケアを必要とする対象とその家族の自立や自律を促し、QOL を高めるための看護を学ぶ。また、急性期（クリティカルな時期）から回復期、セルフマネジメントを必要とする時期に至る過程における対象とその家族の看護について学ぶ。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
（１）クリティカルケアを必要とする人の特徴と看護			クリティカルケアを必要とする人の特徴と看護について理解できる。				侵襲に対する生体反応の特徴を理解させ、侵襲からの早期回復のための看護について考えさせる。	
（２）消化器（胃・大腸）、呼吸器（肺）、乳がん、くも膜下出血で手術を受ける人の看護			成人期に起こりやすい急性期健康障害に焦点をあて、周手術期に必要な看護について理解できる。				看護科の成人看護をベースにして、専門基礎分野の疾病・治療概論や各論と関連づけながら、科学的な視点でアセスメントできる知識と技術を習得させる。	
（３）回復期、セルフマネジメントを必要とする時期に至る過程の援助			クリティカルな時期から回復期、セルフマネジメントを必要とする時期に至る過程の援助技術について理解できる。				治療終了後も継続して健康管理が必要となる人の、主体的な療養行動を促進するために必要な技術について扱う。	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座	別巻	臨床外科看護総論	医学書院					
系統看護学講座	別巻	臨床外科看護各論	医学書院					
系統看護学講座	別巻	がん看護学	医学書院					
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 小テスト 提出物（ノート、課題、レポート） 試験					授業（講義） 授業（グループ） 演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能			知識・理解	
クリティカルな時期にある患者の看護について関心を持ち、急性的展開をする疾患または病態に応じた対象への援助について意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。		重篤で急激に変化する患者の状態を、科学的な視点でアセスメントし、解剖生理、病態生理と関連して思考を深め、必要な看護技術を的確に表現できる。		クリティカルな時期にある患者の看護について必要な技術（観察、ドレナージ、創傷管理、呼吸訓練技術など）を身に付けている。			クリティカルな時期にある患者とその家族の看護において、臨地で必要とされる知識を身につけ、援助の方法やその必要性について理解している。	

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	慢性疾患療養生活支援論	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
慢性的、長期展開をする疾患・病態に応じた対象への、QOL の充実のための援助を理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
【内科内分泌】 1) 内分泌・代謝器官の構造と機能 2) 内分泌器官とホルモンの機能 3) 検査 内分泌疾患 代謝疾患の検査 4) 疾患の理解 ①内分泌疾患：視床下部一下垂体前葉系疾患，後葉系疾患，甲状腺疾患，副甲状腺疾患，性腺疾患，消化管ホルモン産生腫瘍 ②代謝疾患：糖尿病，高脂血症，肥満症，尿酸代謝障害 5) アレルギー疾患の症状と理解 6) 膠原病の疾患の症状と理解			内分泌・代謝系統の構造と機能について学ぶ。 それぞれの検査法の特徴をつかみ，検査法の適用について学ぶ。 各疾患における症状とその病態生理を理解し，検査・診断・治療について学ぶ。			解剖学，生理学，生化学などで学んだ内分泌・代謝の知識を統合させる。 内分泌・代謝器官の構造と機能で学んだことをふまえて，検査を理解させる。 代謝疾患では，糖尿病をしっかりと理解させる。		
血液・造血器疾患患者の看護 ・白血病 体液の調節障害時の看護 ・慢性腎炎 糖代謝障害時の看護 ・病態と栄養 ・食事療法の基礎 自己免疫による障害時の看護 ・膠原病			貧血・白血病のある患者の特徴を理解し，看護援助について学ぶ。 腎疾患の治療・透析治療を受ける患者の看護に必要な知識について学ぶ。 糖尿病の具体的な看護援助について学ぶ。 膠原病の経過とその特徴や看護について学ぶ。			白血病の看護を各病気に分けて理解し，各期における看護や化学療法についても指導する。 腎疾患で起こる各症状への対応や援助，合併症の予防するための知識・技術について指導する。 糖尿病看護において必要とされる知識，援助，その必要性について指導する。 膠原病の看護について学ぶとともに，その患者を支える家族への問題や援助について指導する。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座	成人看護学(4)血液・造血器						医学書院	
系統看護学講座	成人看護学(8)泌尿器						医学書院	
系統看護学講座	成人看護学(6)内分泌・代謝						医学書院	
系統看護学講座	成人看護学(11)アレルギー・膠原病・感染症						医学書院	
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況，授業への取り組み，提出物（課題・レポート），小テスト，試験					授業（講義・グループ）演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
慢性的、長期展開をする疾患または病態に応じた対象への、QOL の充実のための援助を理解する。		慢性疾患の種類・動向・特徴について考えると共に慢性疾患を病む人々の QOL を左右する要因についても考え，各疾患の基礎的知識を土台とし，援助の方法について判断し表現することができる。		慢性疾患の特徴について理解し，看護の対象が疾病と生活の自己コントロールができるよう援助が実践できる技術を身につけている。		慢性疾患の特徴について述べ，疾患の特徴をふまえた症状のコントロールが大切であることを理解し，基礎的・基本的知識を身に付けている。		

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	老年健康生活 支援論Ⅰ	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
・ 老年期の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護の役割を考える。 ・ 老年期にある人の日常生活上の健康問題を総合的に理解し、その看護について考える。 ・ 加齢に伴う主な疾病や構造の特徴を理解し、それに応じた看護や予防方法について学習する								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
1 老年期の生活 ① 老年期の人の理解（生活史、身体的・精神的・社会的特徴、性） ② 日常生活上の健康問題の特徴と援助（コミュニケーション、安全、運動、休憩と睡眠、清潔、栄養と代謝、排泄、移動等） ③ 老人看護の目標と役割、健康を守るための援助、寝たきりの予防、高齢者と死、家族への援助			・ 老年者への理解を深めるために、加齢に伴う身体的・精神的変化を成熟という観点から理解し、その変化が個々に及ぼす影響や援助活動の方法論を学ぶ。 ・ 老年者の日常生活の自立生活拡大のための援助が実践できる。				・ 老年者理解のためのアセスメントツールを模擬患者に使用したり、援助方法についてロールプレイを用いて学ぶ。 ・ 日常生活の援助技術の学習では、老年者の特徴や状態に応じた援助がおこなえるように演習や実習を取り入れる。	
2 老年期による問題と看護 （認知症、骨粗鬆症、廃用症候群）			・ 加齢に伴う老化現象の特徴を理解し、ケアの具体的な注意点を学ぶ。 ・ 老年者に多い疾患の特徴や看護について学習する。				・ 老年者の特徴をふまえたフィジカルアセスメントの方法や、ケアの方法をロールプレイングしながら身につけさせる。	
3 脳神経疾患患者の看護 ① 老年期に多い脳神経疾患、症状、検査、治療、看護、脳神経疾患（脳動脈瘤、脳出血、脳梗塞） ② 身体的、心理・社会的問題に対する看護			・ 高齢者に多い脳神経疾患の健康障害の特徴と援助方法が理解できる。 ・ 治療や処置を受ける患者の看護が理解できる。				・ 高齢者に多い脳神経疾患の看護について急性期、慢性期の個別性や状態に応じた治療や処置の援助、合併症予防や身体可動性障害のある人への援助などについて理解させる。	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 成人看護学(7) 脳・神経疾患患者の看護 医学書院								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験 小テスト					授業・グループ 校内演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
老年期にある人の総合的理解、看護、保健、医療、福祉活動、人権の尊重、疾病、障害、また高齢社会の問題について関心を持ち、その改善に向けて意欲的に取り組むことができる。		老年期にある人の問題や高齢社会の諸問題について解決するため、老年期の特徴や健康障害についての知識を基礎として、論理的に考え、適切な判断をすることができる。 様々な健康状態にある人のための適切な援助方法や対策を考え表現することができる。		老年期にある人の総合理解と健康の保持増進に対する援助に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。		老年期にある人の健康を障害する因子について理解し、健康の保持増進に必要な知識を見につけ、老年看護の意義や役割を理解している。		

専門分野Ⅱ	科目名	単位(h)	履修学年					科目の種類
	老年健康生活支援論Ⅱ	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
加齢に伴う主な疾病や構造の特徴を理解し、それに応じた看護や予防方法について学習する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
1 老年期に多い疾患及び看護 a.疾患（骨折、慢性関節リウマチ、変形性関節症、骨腫瘍、脊椎靱帯骨化症） b.治療別看護（牽引療法、観血的治療） c.疾患別看護（骨折各論、大腿骨頸部骨折、脊髄損傷、椎間板ヘルニア、変形性関節症、四肢切断） 2 看護過程の展開 （大腿骨頸部骨折の患者） （変形性膝関節症の患者）			・老年期疾患の特徴を学びながら、老年者を看護するうえで留意すべき点を学習する。 ・疾患の検査の看護、フィジカルアセスメント、治療や疾患の合併症の予防と看護の実際について学習する。 ・代表的な疾患の看護について理解し実践できるように学習する。			・老年者・若年者問わずに罹患する疾患についても老年者の特有の症状について理解させる。 ・老年期の薬物療法、手術やリハビリテーションなど治療時の看護上の留意点について理解させる。 ・看護やフィジカルアセスメントの方法を演習を行い身につけさせる。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 成人看護学(10)運動器 系統看護学講座 老年看護学			医学書院 医学書院					
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物（ノート・レポート） 試験 小テスト					授業（講義・グループ） 校内演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
老年者の身体的・精神的・社会的特徴を理解した上で、自ら進んで老年者の健康状態や個としての対象に応じた看護の展開に取り組む意欲的・実践的な態度を身につける。		老年者の健康障害についての知識を基に、様々な障害に対応した看護について考えることができる。老年者が生活する環境について思考を深め、創意・工夫することができ、その成果を的確に表現できる。		基本的な看護技術を基盤に様々な健康状態にある老年者への適切な援助方法を身につけ、対象に応じた看護の実践的な展開を工夫することができる。		老年者の加齢に伴う変化とその影響についての知識を持っている。健康維持・増進の目的で日常生活における老年者の援助ニーズとその適切な援助技術を理解している。		

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	小児健康生活支援 論Ⅰ	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
小児看護の対象を理解し、小児を取り巻く環境の意義、小児観の歴史的変遷を知り、小児看護の理念・目的を理解する。 小児保健統計をふまえ、小児を保護する法律や保健対策を理解する。 小児の成長発達を理解し、評価・アセスメントできる。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
1 小児看護の特徴と理念 (1) 小児看護の特徴・目標と役割 (2) 小児と家族の諸統計 (3) 小児看護における倫理 (4) 小児看護の課題 (5) 家族の特徴			小児看護の特徴を理解し、小児看護における倫理や看護師としての役割がわかる。 少子高齢社会を背景とする特徴や子どもにとっての家族について把握し、小児と家族の諸統計を理解できる。				小児看護の対象となる子どもについて、成人と比較し違いを理解させる。 小児の人権について考えさせる。 社会背景を理解させる。	
2 子どもの成長・発達 (1) 成長発達の評価 (2) 各期の成長発達 ・新生児・乳児 ・幼児・学童 ・思春期・青年期			成長・発達の意義を理解し、評価の方法がわかる。 小児各期の特徴を把握し、発達段階に応じた観察項目を理解した上で、成長・発達をアセスメントできる。 小児の日常生活の援助技術を習得する。				小児各期の特徴を、国家試験の出題基準と照らし合わせて押さえる。 成長・発達の評価ができるよう、ツールを活用する。 校内演習やグループワークを活用し、小児の特徴をイメージしやすいよう授業形態を工夫する。	
3 子どもと家族を取り巻く社会 (1) 児童福祉 (2) 母子保健 (3) 予防接種・学校保健			子どもの健康と権利を守るための政策を把握できる。 予防接種の意義を理解し、子どもとその家族に説明できる、知識と技術を身につける。				小児における施策を理解させ看護の役割を学ばせる。 母性看護との連携を図り、社会福祉、関係法規につなげる。	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 厚生指標 臨時増刊 国民衛生の動向 財団法人 厚生統計協会								
評価の情報源					教 育 形 態			
授業への取り組み 提出物 プレゼンテーション 小テスト 定期考査					講義 校内演習 グループワーク			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
小児、家族、母子関係、小児医療、人権の尊重、生命に関する倫理、現代における小児の諸問題、日常生活と人間関係のありかたに関心をもち、日常生活と関連づけてその改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身につけている。		小児と家族の健康に関わる問題点の解決を目指し自ら思考を深め基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し創意工夫する能力を身につけ、その成果を適切に表現することができる。		小児とその家族の健康についてその援助に関する基礎的・基本的で安全な技術を身につけている。		小児看護の変遷及び小児保健医療の動向をふまえて、小児の特性の理解と健康についての援助を科学的根拠に基づいて理解し、基礎的な知識を身につけ小児看護の意義や役割を理解している。		

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	小児健康生活 支援論Ⅱ	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
病気や入院が小児と家族に与える影響と援助を理解する。 さまざまな健康状態にある小児と家族の看護を理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
1 病気・障害を持つ子どもと 家族の看護 (1) 病気・障害が与える影響 (2) 入院 (3) 外来 (4) 在宅療養 (5) 虐待			疾病や障害が子どもと家族に与える影響について理解する。 入院が小児と家族に与える影響と援助を理解する。 外来や在宅療養の環境と看護の役割を理解する。 虐待について、法律も含めて理解できる。			小児の発達段階を踏まえて、認知機能の発達と関連づけて理解させる。 子どもにとっての家族の意義を理解させ、常に家族看護を意識させる。 社会福祉、関係法規との連携をはかり、社会資源の活用について理解させる。		
2 疾病の経過と看護 (1) 慢性期 (2) 急性期 (3) 周手術期 (4) 終末期			慢性期、急性期、周手術期、終末期の概要を知りそれぞれに応じた適切な援助法を理解する。			成人看護学との連携をはかる。小児の特徴を踏まえ成人との違いを考えさせる。 小児疾患の特徴を踏まえ経過による看護の違いを理解させる。		
3 子どものアセスメント (1) 身体的アセスメント (2) 症状を示す子どもの看護 (3) 検査・処置を受ける子どもの看護			小児のアセスメントが理解でき技術が習得できる。 各症状について科学的に理解しそれぞれについて看護のポイントを学ぶ。 治療・処置を受ける子どもと家族への看護が理解できる。			解剖生理・基礎看護学との連携をはかる。アセスメント技術について校内演習をする。 小児疾患との連携をはかる。プレパレーションの意義を考えさせる。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座	専門Ⅱ	小児看護学①	小児看護学概論	小児臨床看護総論	医学書院			
系統看護学講座	専門Ⅱ	小児看護学②	小児臨床看護各論	医学書院				
評価の情報源					教 育 形 態			
授業への取り組み 提出物 小テスト 定期考査					講義・演習 グループワーク			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
小児とその家族・社会がかかえる小児の健康問題について関心をもち、日常生活と関連づけてその改善・向上を目ざして意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身につけている。		小児とその家族の基本的特性をふまえて、生活に影響を及ぼす健康問題の解決を目ざして自ら思考を深め基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し表現する。		小児とその家族の健康についてその援助に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。		小児の健康障害の予防に必要な援助について科学的根拠に基づいて理解し、基礎的な知識を身につけ小児看護の意義や役割を理解している。		

専門分野Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	小児健康生活支援論Ⅲ	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
健康を障害された小児とその家族の生活に及ぼす影響について理解し、健康障害をもつ小児とその家族への援助方法を学び、個人の本来の発達を助けるような看護の役割を考える。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
【小児看護】10 時間 看護過程の展開 呼吸・消化器系疾患の看護			短期・長期入院における小児疾患患児と家族の看護についての看護過程を学ぶ。			事例を用いて演習を行う。		
【小児科疾患の看護】20時間 第1章 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常と看護 第2章 新生児の看護 第3章 代謝性疾患と看護 第4章 内分泌疾患と看護 第5章 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患と看護 第6章 感染症と看護 第7章 呼吸器疾患と看護 第8章 循環器疾患と看護 第9章 消化器疾患と看護 第10章 血液・造血器疾患と看護 第11章 悪性新生物と看護 第12章 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護 第13章 神経疾患と看護 第14章 運動器疾患と看護 第15章 皮膚疾患と看護 第16章 眼疾患と看護 第17章 耳鼻咽喉疾患と看護 第18章 精神疾患と看護 第19章 事故・外傷と看護 第20章 子どもの虐待と看護			それぞれの疾患の特徴を学び、疾患をもつ小児と、その家族の看護を理解する。			専門医師より疾患の病態、症状、治療、観察点、援助法について学ばせる。		
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座	専門Ⅱ	小児看護学①	小児看護学概論	小児臨床看護学総論	医学書院			
系統看護学講座	専門Ⅱ	小児看護学②	小児臨床看護各論	医学書院				
評価の情報源				教 育 形 態				
授業への取り組み 提出物 小テスト 定期考査				講義・演習 グループワーク				
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
小児とその家族の健康障害、小児医療、人権の尊重、生命に関する倫理、日常生活と人間関係のあり方に関心をもち日常生活と関連づけてその改善・向上を目ざして意欲的に取り組み、実践的な態度を身につけている。		小児とその家族の健康に関わる問題点の解決を目ざして自ら思考を深め基礎的・基本的な知識と技術を活用して論理的に考え、適切に判断し表現する。		小児とその家族の理解と小児とその家族の健康についての援助に関する基礎的・基本的で安全な技術を身につけている。		小児とその家族の健康問題を身体的機能と心理・社会的側面から理解し、その援助を科学的根拠に基づいて考察し、基礎的知識を身につけ小児看護の意義や役割を理解している。		

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	女性のライフコース支援論Ⅰ	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
女性のライフサイクルを通じて発達する女性のヘルスプロモーション志向を学ぶ。 妊娠、分娩、産褥の各期および新生児の生理と、対象への看護を学ぶ。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
(１) 女性のライフコースの基盤となる概念			セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの概念から、今後のヘルスケアの課題が理解できる。			女性のライフサイクルを通じて発達していく母性準備期、母性成熟期、母性継承期にわたる健康課題に関わる内容を扱い、女性のライフコースの対象に必要なセルフケアを促進するようなヘルスプロモーション志向を学習させる。		
(２) 女性のライフコースの対象理解			女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化と、母性の発達・成熟・継承が理解できる。					
(３) 女性のライフコースを支援する現状			母性保健に関する法律、母子保健統計の推移と保健対策が理解できる。					
(４) 妊娠期における看護			健康的な妊娠期を送る妊娠期の看護が理解できる。			授業は講義だけでなく、妊娠期・産褥期の経過に関する課題学習やグループ演習、模型を使用した技術の具体的な実施などをおして学習する。具体的には妊娠、分娩、産褥の各期および新生児の生理について学び、それらの知識および既習の知識を活用しながら、対象への看護を実践し評価する能力や態度を養うことができるように学習を進める。		
(５) 分娩期における看護			分娩経過、産婦・胎児の健康、産婦の観察技術と看護介入について理解できる。					
(６) 産褥期における看護			褥婦の特徴、ニーズ、看護介入について理解できる。					
(７) 新生児期における看護			新生児の生理と保育技術について理解できる。					
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 母性看護学〔１〕〔２〕母性看護学概論・各論 (医学書院)								
評 価 の 情 報 源						教 育 形 態		
出席、授業への取り組み、提出物（ノート、課題、レポート）試験、小テスト						授業（講義） 授業（グループ） 演習		
評 価 規 準								
関心・意欲・態度			思考・判断・表現		技能		知識・理解	
女性のライフコースの概念、妊娠期～新生児の看護について関心を持ち、対象への援助について意欲的に取り組み、実践的な態度を身に付けている。			女性の生涯の健康と権利についてその意義について考えることができる。周産期の母体・児への看護介入をするために必要な思考・判断ができ、その成果を的確に表現できる。		母性看護について必要な技術（観察、モニタリング、分娩の介助、乳房管理、新生児の保育技術など）を身に付けている。		女性のライフサイクルの健康維持に必要な知識を持ち、妊娠～新生児期の生理を理解し看護介入をするために必要な技術を理解している。	

専 門 分 野 Ⅱ	科 目 名	単 位 (h)	履 修 学 年					科 目 の 種 類
	女性のライフコース支援論Ⅱ	1 (30)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
1 妊娠の成立と妊娠の正常な経過を理解する。 2 分娩の正常な経過を理解する。 3 産褥の正常な経過を理解する。 4 新生児の正常な生理について理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの 目 標			指導上の留意点等		
(1) 生殖器の形態および機能、正常な妊娠期の身体的特性 ①妊娠の生理 ②胎児の発育とその生理③母体の生理的变化 ④胎児の発達および付属物 ⑤妊婦の健康診察 (超音波・NST・胎盤機能検査など)			妊娠の生理、胎児の発育とその生理、妊娠の正常な経過を理解する。			医師講師が授業を担当する。 生殖器の形態および機能では、特に月経周期の調節機序について理解を促す。 また、正常な妊娠、分娩、産褥、新生児について、生理、機序、診察などを取り扱う。		
(2) 正常な分娩の要素と経過 ①分娩の 3 要素と分娩機転 ②分娩時の進行、経過の診察			分娩の正常な経過を理解する。					
(3) 正常な産褥の正常な経過 産褥の身体的変化 (全身・子宮・悪露・乳房・ホルモン)			産褥の正常な経過を理解する。					
(4) 正常な新生児の医療について			正常な新生児の医療を理解する。					
使用教科書・教材・実技実習材料など								
系統看護学講座 母性看護学 [1] 母性看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院)								
評 価 の 情 報 源						教 育 形 態		
出席状況 授業への取り組み (関心・意欲・態度) 小テスト ペーパーテスト						授業		
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
母性看護、周産期～新生児の看護について関心を持ち、母性看護の対象への援助について意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。		周産期の母体・児の健康状態を把握し、適切な看護介入をするために必要な思考を深め判断できる。またその成果を的確に表現できる。		母性看護、周産期～新生児の看護について必要な技術を身に付けている。		妊娠の成立と正常な妊娠経過、分娩の正常な経過、産褥の正常な経過、新生児の生理を理解し、正しい知識を身に付けている。		

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	精神健康生活 支援論Ⅰ	1 (15)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科 目 の 目 標								
精神看護学の位置づけ，精神看護学の目的，対象，看護の機能と役割について学ぶ。 精神保健医療福祉の変遷を歴史的・社会的・医療的側面から理解学ぶ。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
1. 精神臨床看護の考え方 精神看護の考え方，看護師の役割			精神看護の目的や意義，考 え方，看護師の役割が理解 できる。				精神看護の目的，意義，考 え方，看護師の役割につい て説明する。	
2. 精神看護援助の基本と技術 (1) セルフケアの援助 (2) 患者-看護師関係 (人間関係論、プロセスレコード) (3) 精神療法・リハビリテーショ ン療法 (コミュニケーション、ロールプ レイ，生活技能訓練 (S S T))			精神看護の基盤となる理論 とモデルや技術を知り，精 神の健康・回復の援助方法 を理解できる。				精神看護に関わる際に必要 な理論・モデルについて知 らせる。また，対処方法や 援助方法などについても実 際に演習やグループワーク を通し理解が深まるよう説 明する。	
3. 看護過程の概要と展開 プロセスレコードの意義			看護過程の概要を知り， 展開方法を理解する。 プロセスレコードの意義を 知り展開方法を理解する。				事例を用いて看護過程の展 開，プロセスレコードの意 義を理解させ，自らの振り 返りができるようにする。	
4. 精神保健福祉の歴史 5. 精神保健福祉法・関係法規			精神保健福祉の歴史につい て理解できる。				精神保健福祉の歴史的背景 を説明し，現状と結びつく よう説明する。	
使用教科書・教材・実技実習材料など								
精神看護学Ⅰ NOUVELLE HIROKAWA 精神看護学Ⅱ NOUVELLE HIROKAWA NANDA-Ⅰ 看護診断 定義と分類 医学書院								
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物 試験					授業・演習（グループワーク）			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
精神看護学の目的，対 象，看護の機能と役割に 関心をもち，意欲的に取 り組むとともに，臨地に むけての実践的な態度を 身につけている。		精神の健康に関わる問 題点を解決するために， 専門的知識を活用して論 理的に考え，判断をし創 意工夫することができ， 関わりの中で適切に表現 できる。		看護師と患者の関係 について基礎的な知 識を持ち，関わりの 技能を身につけてい る。		看護学における精神 看護学の位置づけ，精 神看護学の目的，対象， 看護の機能と役割につ いての知識を身に付け ている。 看護過程の展開方法 を身につけている。		

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	成人看護学実習	2 (90)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2	全員必修科目
科目の目標								
1 成人各期の発達段階と特徴を踏まえて、対象が理解できる。 2 対象の健康状態により生じる問題を把握し、対象と家族に対して個別性に応じた看護を計画し、実践、評価できる。 3 習得した基礎看護技術を基に、対象に応じた個別的な援助ができる。 4 継続看護の必要性を理解し、保健医療のなかで看護の役割を理解する。								
学 習 内 容		学習内容ごとの目標			指導上の留意点等			
・急性期疾患患者の看護 ・慢性期疾患患者の看護		疾患の解剖生理，病態生理に関する基礎的知識を身に付け，対象に応じた具体的な看護過程を展開することができるよう学ぶ。 観察・経験した事を明確に記録でき，文献学習を通して知識を深めていく。 成人期の看護をする上での基礎看護技術を習得し，対象に応じた援助ができるようにする。			病院で実習を行う。 成人疾患患者の看護を1・2年次で内科系・外科系の各科で経験できるように行う。受け持ち患者の看護の方向性を把握し，適切な看護援助を提供し，実施した看護評価ができるように指導する。 成人期の看護をする上での基礎看護技術を習得し，対象に応じて実践できるように指導する。			
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席，実習への取り組み，レポート，記録物 実習評価表（自己・病棟）					臨地実習・グループ演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
成人期の対象への看護について意欲的に取り組み，実践的な態度を身につけている。		成人期の対象の諸問題の解決を目指して自らの思考を深め，看護介入をするために必要な思考や判断ができ，その成果を的確に表現する。		成人期の看護についての必要な基礎的な看護技術を身に付け，臨床現場に応じた援助を実践できる。		成人期の看護の必要性を理解し，個別性に応じた看護を計画，実施，評価するために必要な知識を持っている。		

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	老年 看護学実習	2 (90)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2 ○	全員必修科目
科 目 の 目 標								
1 老年期の特徴と健康障害との関連性について理解する。 2 対象の健康状態により生じる問題を把握し、個別性に応じた看護を計画、実施し評価できる。 3 人生の終末期における老人の生命と人格を尊重する態度を養う。 4 老人医療における保健福祉活動と看護の役割について理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標				指導上の留意点等	
1 健康レベルに応じた看護実践 (健康な生活の保持増進時、社会復帰期、慢性期、疾病の予防と早期発見、終末期、検査・治療に伴う看護) 2 機能障害時の看護実践 (呼吸・循環、栄養代謝、防衛機能、内部環境調節機能、感覚機能、運動機能、言語機能、性・生殖機能) 3 周手術期の看護 (手術前、手術当日、手術後、救命救急時、急性期、回復への援助、術後合併症、終末期、検査・治療に伴う看護)			・老年期の患者の身体的、心理的、社会的特徴としての予備能力の低下を考慮に入れた援助ができる。 ・老年期の患者の治療処置援助と看護の実践を学ぶ。 ・老年期の患者に頻度高く見られる主要症状を理解し、看護援助ができる。 ・生活リズムをつけ、日常生活動作の維持拡大ができるよう援助する。 ・在宅看護へ向けて背景を考慮した導入計画と家族を含めた退院への援助を学ぶ。				・病院で実習を行う。 ・患者の同意を得て、病棟スタッフの指導のもとで、看護を行い、看護過程を展開する。 ・既習の知識を活用しながら、対象への看護を実践し評価することができるように実習を進める。	
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 実習への取り組み レポート、記録物、実習評価表 (自己・病棟)					臨地実習・グループ演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
老年期・高齢社会における加齢、生活、保健に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むとともに、高齢化現象、及び、精神的社会的発達から老年期にある患者を看護する実践的な態度を身につけている。		老年期の患者の看護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけ、的確に表現することができる。		老年期・高齢社会にある患者の看護に関する基本的な技術を身につけ、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理することができる。		ライフサイクルの視点から、高齢化や加齢現象、および精神的社会的状況から老年期における看護援助の基本的知識を身につけ、看護の意義や役割を理解している。		

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	小児看護学実習	2 (90)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2 ○	全員必修科目
科 目 の 目 標								
1 小児の成長・発達，健康障害，家族の状況を理解する。 2 小児を1人の個として尊重し，成長・発達段階に応じた日常生活の援助ができる。 3 対象の健康状態により生じる問題を，成長・発達を踏まえて把握し，個別性に応じた看護を計画，実施，評価できる。 4 対象を取り巻く医療，保健，福祉の連携の中で，看護の役割について理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
小児の入院環境 入院の受け入れ 主な症状と状態に応じた対象の看護			・診察の介助ができる。 ・主な症状と各状態に応じた看護が理解できる。			病棟オリエンテーションの実施		
入院生活の援助 診察・検査の協力 小児病棟の管理 人間関係技術 外来における小児と家族の看護 予防接種，健康診査			・患児の入院生活を理解する。 ・病棟の特徴を理解する。 ・コミュニケーション技術を学ぶ。 ・継続的な健康管理について学ぶ。			成長・発達とその評価について学ばせる。 感染対策を講じる。		
主な疾患と看護 感染症 呼吸器疾患 消化器疾患 腎・泌尿器疾患 看護過程の展開 急性期，慢性期の状況にある患児			・疾患に罹患した患児と家族を理解し受持患児の看護を学び，看護過程が展開できる。 ・グループの受持患児の看護を学ぶ。			カンファレンスにおいて看護実践についての指導・助言を得る。		
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席状況 授業への取り組み 提出物（レポート） 記録類 実習評価表（自己・病棟）					校外実習（臨地実習）			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
小児とその家族の健康障害，小児医療，人権の尊重，日常生活と人間関係のあり方に関心をもちその改善・向上を目ざして意欲的に取り組み，実践的な態度を身につけている。		小児とその家族の健康に関わる問題点の解決を目ざして思考を深め基礎的・基本的な知識と技術を活用して論理的に考え，適切に判断し創意工夫する能力を身につけ，適切に表現する。		小児とその家族の理解と小児とその家族の健康についての援助に関する基礎的・基本的で安全な技術を身につけている。		小児とその家族の健康問題を身体的機能と心理・社会的側面から理解し，その援助を科学的根拠に基づいて考察し，基礎的知識を身につけている。		

専門分野 Ⅱ	科目名	単位(h)	履 修 学 年					科目の種類
	母性 看護学実習	2 (90)	1 年	2 年	3 年	専 1 ○	専 2 ○	全員必修科目
科 目 の 目 標								
1 妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護の必要性を理解し、基本的な援助、保健指導ができる。 2 妊娠・分娩・産褥期における母子関係について理解を深め、援助の必要性を把握し、個別性に応じた看護を計画、実施、評価できる。 3 母性を取り巻く地域の医療、保健、福祉の諸機関との関係について理解する。								
学 習 内 容			学習内容ごとの目標			指導上の留意点等		
(1) 妊娠期における看護			妊娠期の看護が理解できる。			病院で実習を行う。 産婦の同意を得て、病棟スタッフの指導の基で、正常分娩の看護を行う。また、産褥期の看護過程を展開する。 既習の知識を活用しながら、対象への看護を実践し評価することができるよう実習を進める。 実習病院と連携しながら、新生児室および母性外来での実習を経験する。		
(2) 分娩期における看護			正常分娩への看護介入について理解できる。					
(3) 産褥期における看護			褥婦の個別性に応じた看護を計画、実施、評価できる。					
(4) 新生児期における看護			新生児の生理を理解し、新生児の看護について実習できる。					
評 価 の 情 報 源					教 育 形 態			
出席、実習への取り組み、レポート、記録物 実習評価表（自己・病棟）					臨地実習・グループ演習			
評 価 規 準								
関心・意欲・態度		思考・判断・表現		技能		知識・理解		
妊娠期～新生児の看護について関心を持ち、対象への看護について意欲的に取り組み、実践的な態度を身に付けている。		妊娠期～新生児の母体・児への看護介入するために必要な思考や判断ができる。 またその技術を病棟スタッフの指導の基で、的確に実施できる。		母性看護について必要な技術（観察、モニタリング、分娩の介助、乳房管理、新生児の保育技術など）を身に付けている。		妊娠・分娩・産褥期における看護の必要性を理解し、個別性に応じた看護を計画、実施、評価するために必要な知識をもっている。		